

令和5年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「誠実・努力・協調」を校訓として掲げ、生徒も教職員も健康で生き生きと学び続ける自分にとっての「最高」の学校。与えられた生命の可能性を伸張し、能力を最大限に発揮する知性と感性を育み、国際社会の中で適切な判断、意思決定、社会参画ができ、人とつながり、心豊かに次代を生きる力をはぐくむ教育を実践する。

1. 学び続ける意欲と態度を養い、確かな学力を身につけ、高い志を持って将来を見据えた進路を切り拓き、自らの人生を創造する力をはぐくむ。
2. あらゆる教育活動を通して人権感覚を高め、「誠実に生きる力、努力し続ける力、協調する力」を身につけた豊かでたくましい人間性をはぐくむ。
3. 豊かな国際感覚と優れた外国語運用能力を身に付け、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、持続可能な社会の創り手となる人材を育成する。

2 中期的目標

1. 学び続ける意欲と態度、確かな学力の育成

(1) 授業力向上の取組み

- ア 新学習指導要領や高大接続改革を踏まえた「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業の研究・開発・実践を組織的に進める。
- イ 包括的な教育ビジョンに位置づけられた教科指導の学習達成目標及び評価指標を共有し、計画・実践（指導）・評価・改善（PDCA）を繰り返し、不断の授業改善に取り組む。
- ウ 1人1台端末を利用した学習環境を整備し、これまでの教育実践にICTを取り入れ、一斉学習、個別学習及び協働学習を効果的に組み合わせた学びを開発・実践する。
- エ 授業アンケートの結果を踏まえた改善を進め、互見授業・公開授業・校内外の研究授業等を通じて組織的な授業力向上の取組みを進める。

(2) 学習到達度の把握と学力伸張の取組み

- ア 1年次から学力生活実態調査、模擬試験等を利用して学習到達度を把握し、教科・学年・分掌が協働して基礎学力定着と応用的学力伸張に取り組む。
- イ 授業において、「復習・予習→授業→復習・予習」のサイクルを日々行う意識を根付かせ、学び続ける力をつける。

(3) 自学自習の習慣を確立する取組み

- ア 生徒が主体的に個別の学習到達目標を設定し、1年次から自学自習が学力伸張に繋がる実感が持てるように持続可能な学習支援を効果的に行う。
- イ 小テスト・朝学・補習・講習・週末課題など、これまでの教育実践がより効果的な学習になるようにICTを取り入れ、学習動画配信やオンライン学習の開発・実践に取り組む。
- ウ 学校経営推進費整備事業（R3）の「花園高校図書学習情報センター」を効果的に運用して以下のミッションを達成し、生徒のあらゆる学びを支援するシステムを構築する。
 - ①「情報発信スタジオ」を整備し、教員によるオンライン教材の開発に資するとともに、国内外複数地域との同時接続による交流、本校舎普通教室へのライブ配信などの機能を授業等で積極的に活用し、生徒の思考力・判断力・表現力及び主体的な態度を養う。同時に撮影した動画をアーカイブ化し学習教材として活用する。
 - ②「校内教育資料横断検索システム」を構築し、図書館や各教科準備室保管の書籍、探究発表や学校行事の映像や文書、各教科等の学習動画をアーカイブ化し、本校での日々の教育活動の全容を横断的に関連付けて、検索・閲覧できる素材を収集する。また、各資料には資料管理者や教員が付ける検索タグの他に、生徒が記述可能なタグ領域を用意し、資料の有機的な結合を促進する。
 - ③「生徒が読みたい本」「生徒に読ませたい本」を整備し、読書活動を啓発し、読書によって教養を身につける経験をさせ、自主的な読書活動を支援する。

※学力生活実態調査における学力（2年次2回め）B2以上40%（R2：24.8%、R3：21.7%、R4：20.0%）、B3以上80%（R2：54.1%、B3：60.0%、R4：45.1%）

「生徒向け学校教育自己診断（以下生徒自己診断）」において、令和7年度までに「授業などで自分の考えをまとめたり、発表したりすることがよくある」86%以上（R2：75%、R3：78%、R4：85%）、「教え方に工夫をしている先生が多く、授業は分かりやすい」85%以上（R2：75%、R3：77%、R4：84%）、「コンピュータ等のICT機器が授業などで活用」95%以上を維持（R2：89%、R3：91%、R4：95%）、「授業・補習を通じて、進路に必要な学力を得ることができる」90%以上（R2：86%、R3：88%、R4：88%）、「態度よく集中して授業を受ける」88%以上（R2：83%、R3：84%、R4：87%）、「宿題・予習・復習など、家庭学習の習慣がついている」62%以上（R2：56%、R3：60%、R4：59%）、また、令和7年度に読書を年間10冊以上の生徒80%を達成。

2. 将来を見据えた進路を切り拓く力の育成

(1) 進路指導体制の構築

- ア 新学習指導要領や高大接続改革を踏まえた3年間の進路指導計画を策定し、教科・学年・分掌の協働による全教職員が一体となって取り組む進路指導体制を構築する。
- イ 大学や企業など外部の様々な職業人を講師として招聘し、または、訪問して学ぶ機会を安定して供給できる体制を整える。

(2) 探究的学習の推進

- ア 「第4次大阪府子ども読書活動推進計画」に則り、SDGs探究活動や進路探究学習に読書活動を積極的に取り入れ、インターネットによる情報のみに頼らない、確かなエビデンスに基づく探究的学習を実践し、自らの進路を切り拓く力を育成する。
- イ 「総合的な探究の時間」や「花園進路探究プログラム」等で自発的に学び探究する能力を引き出し、全生徒が探究活動を通じて成長した実感が持てるよう指導する。
- ウ SDGsに係る探究活動において、当事者に共感し、真に当事者意識を持って課題解決する能力を養い、未来を創造する力を育成する。

※生徒自己診断において、令和7年度に「将来の進路や生き方について考える機会がある」92%以上（R2：85%、R3：90%、R4：91%）、「探究的な学習を積極的に取り組む」82%以上（R2：68%、R3：76%、R4：80%）、「自分の進路についてしっかりと考えている」84%以上（R2：75%、R3：82%、R4：79%）、また、国公立大学及び難関私立大学現役合格者250名以上（R2：196、R3：317、R4：178）、学校斡旋就職内定率100%を達成する。

3. 人権が尊重された教育の推進と社会性の育成

(1) 自己とあらゆる他者の人権を尊重し、多様性を認め、高め合う感性の育成

- ア 互いに理解し繋がる力を育成し、誰もが自分の居場所がある集団育成に取り組む。
- イ 関係教科と連携し、組織的・継続的な指導を行い、情報リテラシーを育成する。

(2) 社会性の育成

- ア TPOに応じ、責任感を持って行動できる生徒を育成する。
- イ 校内美化を推進し、落ち着いて学習に取り組むための清潔で快適な学習環境を保つ。

(3) 自主的な活動への参画

- ア 生徒会活動やボランティア活動に協調性を持って積極的に取り組む生徒を育成する。
- イ 部活動に所属して生徒が主体的に個性や能力を伸張する機会を確保し、目標を持って継続して取り組む生徒を育成する。

※生徒自己診断において、令和7年度に「本校で人権を尊重することについて学べている」92%以上を維持（R2：89%、R3：90%、R4：92%）、「HR教室は居場所として快適である」90%以上を維持（R2：88%、R3：89%、R4：91%）、「本校で友好的な人間関係を築けている」92%以上を維持（R2：93%、R3：94%、R4：93%）、「本校の校則や決まりをよく守っている」94%以上を維持（R2：92%、R3：94%、R4：94%）、「教室や廊下などは清掃がいきとどき授業をするのにふさわしい環境である」74%以上（R2：65%、R3：69%、R4：72%）、「HR活動や生徒会行事に積極的に参加」88%以上を維持（R2：83%、R3：84%、R4：89%）、「部活動が活発」90%以上を維持（R2：92%、R3：94%、R4：94%）を達成する。

4. 豊かな国際感覚と優れた外国語運用能力の育成

(1) 多文化理解教育の一層の充実

- ア 留学生や姉妹校との交流（WEBを含む）や多文化理解に係る体験的学習を推進し、多文化共生について深く考え、課題の解決に協働して向かう姿勢を養う。
- イ 英語や第二外国語（韓国朝鮮語・中国語・フランス語）の授業等を通して、異国の文化や伝統等を学び理解し尊重する態度を養う。

(2) 英語 4 技能を総合的に伸ばす英語教育の充実 (国際文化科・普通科)

- ア ICT を活用し、4 技能を総合的に伸ばす指導方法を開発するとともに、ネイティブ英語教員を最大限にいかした英語教育を実践する。
- イ スピーチコンテストやインターナショナル・フェスティバル等で発表する機会を積極的に取り入れる。
- ウ 英語運用能力について、CEFR-J の A2.2 以上を目標とするとともに、第二外国語の語学検定試験、英検準 1 級等資格取得に挑戦させる。
- エ 国際理解教育を推進し、生徒の視野を広げ、海外語学研修や留学に挑戦させる。
 ※生徒自己診断において、令和 7 年度までに「国際交流・国際理解教育が充実」95%以上 (R2 : 91%、R3 : 87%、R4 : 91%) を達成する。
 ※令和 7 年度までに、国際文化科 3 年次 12 月 CEFR-J スコア B1.1 以上 50%、A2.2 以上 100%を達成する。(R4 : B1.1 以上 46%、A2.2 以上 100%)

5. 学校力の向上

(1) 業務の効率化と生産性を向上させる仕組みづくり及び働き方改革の推進

- ア 教科・学年・分掌の持続可能な協働体制を確立し、すべての教職員が主体的に学校経営に参画する意欲を持つ教職員集団を組織する。
- イ 人権教育や防災教育の推進、授業改革やオンライン学習支援の充実、生徒指導や進路指導のスキル向上など教職員の資質向上に寄与する研修を効果的に実施する。
- ウ ICT ソリューションを活用した会議運営及び情報共有の効率化を図るとともに全校一斉定時退庁日を定着させ、働き方改革を推進する。

(2) 広報活動の充実、開かれた学校づくりの推進

- ア 学校説明会等における「花園 PRESS」活動や WEB ページの充実、及び、地域・中高・高大の連携を推進する。
 ※教職員自己診断において、令和 7 年度に「会議が有効に機能」70%以上 (R2 : 67%、R3 : 51%、R4 : 66%)、「各組織の連携」60%以上 (R2 : 48% : R3 : 40%、R4 : 58%)、「校内研修は役立つ」75%以上 (R2 : 74%、R3 : 58%、R4 : 70%)、「中学生への情報発信」95%以上を維持 (R2 : 91%、R3 : 87%、R4 : 96%)、「保護者や地域に対して十分な情報を伝えている」90%以上 (R2 : 91%、R3 : 84%、R4 : 78%)、保護者自己診断「保護者への連絡や情報提供を積極的に行っている」90%以上 (R2 : 89%、R3 : 79%、R4 : 84%) を達成する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 5 年 12 月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>学校生活をより充実したものとするため、生徒、保護者の皆様と教職員に対して、学校教育活動や取組みに関するアンケート「学校教育自己診断」を 12 月中旬に実施。(保護者回答率 87.4%)。</p> <p>○生徒の自己診断結果は、肯定率 80%以上の項目が 23 項目、前年比 10%以上 UP、DOWN した項目はなく、良好な結果である。</p> <p>○保護者の自己診断結果は、肯定率 80%以上の項目が 13 項目、肯定率 50%以下の項目が 1 項目で、こちらも良好な結果である。</p> <p>【学校満足度】</p> <p>○生徒、保護者ともに「本校に入学してよかった」は 9 年連続 90%超と高い水準を維持している。「学校に行くのが楽しい」も生徒 89%(R4:87%)、保護者 89%(R4:90%)とも高い満足度が得られている。また、「国際交流や国際理解教育が充実している特色がある」は夏期カナダ語学研修(20 名)、国際文化科オーストラリア研修旅行(2 年次国際文化科全員)を実施し、3 月に韓国語学研修の実施予定もあり、生徒 90%(R4:91%)、保護者 86%(R4:89%)と高い評価が得られた。</p> <p>○「施設・設備の整備」は生徒 71%(R4:77%)、保護者 52%(R4:58%)であり、評価は高くない。校舎等の老朽化に伴う改修工事を計画的に進めているところである。</p> <p>【学習・進路指導等】</p> <p>○生徒の「興味・関心・適性・進路などに応じた科目が選択できる」は、89%(R4:88%)と高い水準を維持しているが、教職員では 62%(R4:86%)と差が出ている。新カリキュラムの 2 年目、3 年次の選択科目における開閉講の問題でいくつか議論が出た。教職員から意見を聴取して改善につなげたい。</p> <p>○「態度良く授業に集中」は生徒 86%(R4:87%)に対して、教職員 77%(R4:82%)と評価に差が出ている。生徒の「授業などで自分の考えをまとめたり、発表したりすることがよくある」89%(R4:85%)だが、1・2 年だけで見ると、93%で、新教育課程の趣旨を踏まえた授業が行われていると判断している。生徒の「授業・補習を通じて、自分の進路にとって必要な学力を得ることができる」87%(R4:88%)、「教え方に工夫をしている先生が多く、授業はわかりやすい」83%(R4:84%)で生徒の授業に対する評価は高い支持を得ている。生徒の「成績・評価は適切」92%(R4:93%)で、「指導と評価の一体化」に向けた「観点別学習状況の評価」について、生徒が納得できる結果であり、評価は適切であると判断できる。</p> <p>○「家庭学習の習慣がついている」59%(R4:59%)保護者 48%(R4:50%)であり、家庭学習の習慣が身につけていない生徒がかなりの割合でいる。特に生徒 1 年(50%)、2 年(51%)。1 年生・2 年生に家庭学習の習慣をつけさせる取り組みを今後行っていきたい。</p> <p>○生徒の「ICT 機器が授業等で活用されている」は、93%(R4:95%)。今年度はリーディング GIGA ハイスクールアドバンス校 1 年目の取り組みとして、1 人 1 台端末、電子黒板機能搭載プロジェクターを授業で積極的に活用したわかる授業の取り組みを行ったことが評価されている。次年度はさらなる授業改革をめざす。</p> <p>○「探究的な学習を積極的に取り組む」75%(R4:80%)は、5%減少しているが、依然高い水準を保っていると言える。「将来の進路や生き方について考える機会がある」91%(R4:91%)、「進路指導はきめ細かい」84%(R4:85%)と高水準を維持している。生徒の学習や進路指導に係る意識はほぼ全ての項目で高い肯定的回答率を維持している。</p> <p>○保護者については、「学力向上をめざした教育活動に取り組む」81%(R4:84%)、「進路に関する情報提供ときめ細やかな指導」76%(R4:74%)、「保護者に対する進路説明会や懇談会が積極的」85%(R4:77%)で高いレベルである。引き続き、保護者とのきめ細やかな連携を進め、保護者からも信頼できる学校づくりに努めたい。</p> <p>○教職員「教員はコンピューター等の ICT 機器を授業などで活用している」94%(R4:84%)は、ICT 活用が進んでいることが評価できる。ICT の活用にだけ気を取られて、生徒の学びをどうしていくのかという視点を見失わないようにしないといけない。</p> <p>【生徒指導等】</p> <p>○生徒の「クラスは居場所として快適」89%(R4:91%)、「本校で良好な人間関係を築けている」95%(R4:93%)、「人権を尊重することについて学んでいる」92%(R4:92%)、「先生はいじめについて真剣に対応してくれる」90%(R4:89%)と、互いの違いを認め合い、生徒一人ひとりを大切に教育が定着し、すべての項目において高い水準の肯定的回答を得ている。</p> <p>○保護者については、「いじめについて真剣に対応」79%(R4:81%)、「一人ひとりの人権を尊重する姿勢で指導」80%(R4:83%)、「生命を大切にす心や社会のルールを守る態度を養う」80%(R4:82%)であり、高い評価を得ている。「生徒指導の方針に共感・納得」は、生徒 68%(R4:61%)、保護者 79%(R4:80%)で、昨年度同様、生徒の評価が低く、保護者の評価が高い。</p>	<p>【第 1 回(R5/6/16)】</p> <p>○R5 年度学校経営計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・R4 年度学校教育自己診断では、生徒や保護者の評価は概ね高い水準を維持している。前年度から学校経営計画に大きな変更はなく、成果指標の数値目標が丁寧に記されているので、継続して高水準を維持できる学校運営に期待したい。R4 年度の教職員の学校教育自己診断では、教職員の学校運営に係る項目に自己評価の低いものが多い。新たな学校長のもとで、現状の分掌・学年・教科等における学校運営における問題点を明らかにしていただきたい。新たな取組みに期待する。 ○スクール・ポリシーについて <ul style="list-style-type: none"> ・花園高校が他校と違うこれだというものを示しつつ、普通科・国際文化科両学科にバランスのとれたものを学校として策定してほしい。 ○進路指導について <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の進路状況は、難関私立大学で減少に転じたが、大学で学びたい内容を高校時代にしっかりと決め、第一志望校に進学したい気持ちをつけさせることで、最後まであきらめない、納得のいく進路実現の結果であるという説明に納得できた。先生方の粘り強い進路指導を、今後も継続していただきたい。 ○国際交流の取り組み等について <ul style="list-style-type: none"> ・府立高校全体的に国際文化科の人氣がなくなってきたと感じているが、気になっているが、花園高校では、コロナ禍においてもオンラインでの国際交流を実施、昨年度からは海外語学研修旅行を再開し、他校にない魅力を発信し続けている。頑張してほしい。 <p>【第 2 回(R5/10/24)】</p> <p>○授業見学を通して</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リーディング GIGA 事業で、全 HR 教室に電子黒板機能つきプロジェクターが導入されており、先生方でさまざまな方法で活用されていた。 ・生徒が ChromeBook を使って、小テストに回答している授業、黒板に投影された英語の本文に手持ちのタブレットからタッチペンで解説を書き込む授業、グループワークでシートに班での考えを共同編集でまとめていく授業など、リーディング GIGA アドバンス校の取り組みを見ることができた。これからはいろいろな取り組みを行ってほしい。 ・グローバル化が進む中、オールイングリッシュの授業はとても意味があると感じた。推進してもらいたい。 ・寝ている生徒はほとんどいなかった。楽しそうに授業を受けていた。その様子が見られてよかった。 <p>○スクール・ポリシー(案)について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全会一致で承認。昨年度策定したスクールミッションをもとに作成されたもので、第 1 回の意見をうまく取り入れられている。今後は、具現化に向けた経営計画の策定を進めてもらいたい。 <p>○令和 5 年度第 1 回授業アンケート結果について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すべての項目で、昨年度第 1 回、第 2 回のアンケートの結果を上回っている。先生方の努力の賜物だと思う。 ・生徒の授業アンケート結果がいいことがいい結果を生み出すとは考えにくい。生徒が満足していることが生徒の学力を引き上げることにつながっているのか疑問である。 <p>○生徒がわかる授業の実現に向けた授業力向上の取り組みについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT 機器はあくまでも道具なので、その活用をすることが目的では

<p>○保護者の「生徒や保護者の気持ちをよく理解し、適切な生徒指導を行っている」は 81%(R4:83%)、「学校の規則やきまりをよく守っている」は生徒 95%(R4:94%)、保護者 92%(R4:92%)と高いレベルであり、保護者からの支持を得ている生徒指導であるので、方針を変えることなく指導を継続したい。</p> <p>○生徒の「担任以外に気軽に相談できる先生やスクールカウンセラーがいる」は、69%(R4:69%)で、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの配置により、面談を含む直接的な支援が教育支援委員会を主体とする組織的な運営ができるようになった。</p> <p>○教職員「教育相談体制が整備されており、生徒は学級担任以外の教職員や SC と相談することができる」87%(R4:92%)で、保健室、進路資料室、職員室前や渡り廊下の相談コーナー等で、生徒と教員が話す光景も多く目にするようになったことも成果である。</p> <p>【行事・部活動・コミュニケーション】</p> <p>○「生徒会行事に積極的に参加」は生徒 88%(R4:89%)、保護者 95%(R4:96%)であり、保護者が体育祭・文化祭に参加し、学校行事に参加できている。「部活動が活発」は生徒 94%(R4:94%)、保護者 79%(R4:84%)と、高い肯定感を得られた。「中学生に必要な情報を十分行っている」は、生徒 85%(R4:86%)、保護者 77%(R4:83%)、教職員 87%(R4:96%)と、高い肯定的回答が得られた。校内外で学校説明会を積極的に実施したことが結果に表れたと思われる。</p> <p>○保護者の「担任や教職員の対応は保護者に対して誠実である」は 88%(R4:90%)であり、引き続き、保護者との連携を深めていけるように努める。</p> <p>【学校運営等】</p> <p>○教職員の「分掌・教科の会議は有効に機能」は 70%(R4:66%)、「各種委員会の取組みが有効に機能」は 62%(R4:68%)、「学年、分掌、教科等が連携し取組みが有効に機能」は 45%(R4:58%)で、分掌・学年・教科の連携について、今後学校として、組織的にどのように取り組んでいくのかを検討するための『将来構想委員会』を、今年度途中から組織した。</p> <p>○生徒の「先生はお互いに協力している」は 88%(R4:90%)と高い肯定的回答を得ている。教職員の「校内研修は教育実践に役立つ」は 66%(R4:70%)と 4%下がったが、R3:58%よりは高いレベルを保っているため、教職員研修は一定の評価を得ており、教育活動に必要な教職員研修を効果的に導入することで、教職員のスキルアップを今後も継続して行っていきたい。</p>	<p>ない。パワーポイントの内容を写すだけで、ICT を活用したとは言えないので、注意が必要である。</p> <p>・ICT の活用にだけ気を取られて、生徒の学びをどうしていくのかという視点がなければ、いけない。</p> <p>・ちょっと上のレベルをやっておかないと、生徒の学力は向上しない。授業の相互見学の取り組みについては、他教科の授業を見ても自教科に活かせるかは、疑問であり、自教科の中で意見交換し、深めていくことは大切。個別最適な学びをいかに実現するかが鍵となる。個別最適な学びの視点がなければ、学力の低い生徒はわからない、学力の高い生徒は不満足という状況がおきる。</p> <p>・授業力向上のためには、教員どうしの学びの共有の場が必要である。教科内で意見交換を行い、学びを深めていく仕掛けが必要。</p> <p>【第3回(R6/2/9)】</p> <p>○令和5年度第2回授業アンケート結果及び令和5年度学校教育自己診断結果について</p> <p>・今年度の学校教育自己診断で肯定率の低かった「分掌・学年・教科の連携」の項目について、学校の組織運営の上で改善が必要。将来構想委員会を中心に改善に努めてほしい。</p> <p>校内での仕事の分化については、一つの業務に対して、どの組織が行うのかの交通整理を行う。「総合的な探究の時間」の運営では、教科間の連携と学年間の連携をうまくリンクさせることが必要。いずれにせよ方針を立てて学校運営をしてほしい。</p> <p>・生徒の自学自習がなされていないことについては、大学進学をめざした高校の学習であることを生徒にいかに周知させるかが大切。そのためには、1年生段階から家庭学習を推進する必要がある。早い段階で進路説明会を開催したりして、生徒たちの自学を促すきっかけを作してほしい。</p> <p>○令和5年度学校評価(案)について</p> <p>・今年度は、各項目で学校教育自己診断の結果は良好。働き方改革を推し進め、教職員の超過勤務時間を大幅に削減させるなど評価できる項目が多い。</p> <p>・目標値を下回っている項目については、目標値の設定に実現困難なものが含まれている。例えば、ブログの更新では、昨年度までは更新回数のほとんどが校長ブログであった。広報部を立ち上げて広報を組織的にしてほしいという意見が多く、学校としてブログ更新に取り組んでほしい。今回、目標値を達成できなかったことは、やむをえないと考える。全体として、学校経営計画は達成されている。</p> <p>○令和6年度学校経営計画(案)について</p> <p>・まずは今年度達成できなかった目標に取り組んでほしい。</p> <p>・HP やブログ等による情報発信は、学校運営を行う業務の傍らで、行っていくのはとても大変である。ターゲットをしっかりと絞って必要な情報だけを配信する形にすることを考えるべき。保護者は、生徒の学校での活動を知りたいと思うので、行事の様子を動画配信したり、状況が許せばライブ配信するようなところにフォーカスしていけば、負担感も少なくなるであろうと考える。</p> <p>・英語検定の取得については、資格取得が大学入試に活かせることなどを前面に押し出すことで、取得率は上がっていくと思われるので、そのような取り組みにも今後期待したい。</p>
--	---

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R4年度値]	自己評価
-------	----------	-------------	-------------	------

<p style="text-align: center;">1</p> <p style="text-align: center;">学び続ける意欲と態度、 確かな学力の育成</p>	<p>(1) 授業力向上の 取組み</p> <p>(2) 学習到達度の 把握と学力伸 張の取組み</p> <p>(3) 自学自習の習 慣を確立する 取組み</p>	<p>ア 「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業 研究・実践を教科内で共有し、教職員が随時閲 覧可能なアーカイブ化を行う。</p> <p>イ 「観点別学習状況の評価」の運用を円滑に実践 し、分析と課題を全体で共有し授業改善に努め、 生徒の学びを深化させる指導と評価の一体化を 進める。</p> <p>ウ ICTを活用した効果的で効率の良い授業を開 発・実践する。</p> <p>エ リーディング GIGA ハイスクール・アドバンス校とし て研究公開授業を行い、電子黒板を効果的に活 用した授業開発を進める。</p> <p>ア・教科ごとに学習到達度分析会を年 3 回実施、 シラバスに沿った進捗や評価の進捗等の確認・ 情報共有を行い、学力向上を図る具体的な取組 みを教科・学年・進路指導部が協働し実践する。</p> <p>イ・持続性のある主体態度を伸張する授業計画を 組織的に立て、教科間の連携を図りながら無理 のない課題を与え、生徒が主体的に学ぶ意欲を 向上させる。</p> <p>ア・学習支援クラウドサービスを活用し、予習・復習 を毎時の授業に反映させる。</p> <p>イ・朝学や週末課題配信、教育産業の動画配信 サービス等を活用し自学自習習慣をつける。</p> <p>ウ・教科と連携して「読書啓発月間」を実施し、月に 1 冊以上の読書を促す。</p>	<p>ア・授業アンケート総合 3.33[3.28] ・「授業計画」3.40[3.38] ・「知識・技能が身についた」 3.30[3.28]</p> <p>イ・生徒自己診断「成績・評価は適切」 90%以上を維持[93%] ・生徒自己診断「考えを発表する機会」 80%[78%]</p> <p>ウ・生徒自己診断「ICT 機器が活用されて いる」95%以上を維持[95%] ・「授業はわかりやすい」85%[84%]</p> <p>エ・電子黒板を活用した研究公開授業を 年 2 回実施する。</p> <p>ア・学力生活実態調査における学力 (2 年次 2 回め) B 2 以上 25% [20%]、B 3 以上 50%[45%]</p> <p>イ・生徒自己診断「授業に集中」88% [87%] ・生徒自己診断「授業・補習を通じて 進路に必要な学力を得ることができる」 88%以上を維持[88%]</p> <p>ア・授業アンケート「授業内容について必 要な予習や復習ができています」 3.27[3.23]</p> <p>イ・生徒自己診断「自学自習の習慣がつ いた」61%[59%]</p> <p>ウ・月平均 1 冊以上本を読んだ生徒 40%以上[12%]</p>	<p>ア授業アンケート総合 3.33 (○) ・「授業計画」3.41 (○) ・「知識・技能が身についた」3.32 (○)</p> <p>イ・生徒自己診断「成績・評価は適切」92% (○) ・生徒自己診断「考えを発表する機会」 89% (○)</p> <p>ウ・生徒自己診断 「ICT 機器が活用されている」93% (△) 「授業はわかりやすい」83% (△) 前年度より若干下回ったが、電子黒板活用 率は向上 (60%) しており、ICT の活用推 進を通じてわかる授業につなげていく。</p> <p>エ・電子黒板を活用した研究公開授業を実施 (6 回) (○)</p> <p>ア・学力生活実態調査における学力 (2 年次 2 回め) B 2 以上 38%、 B 3 以上 71% (◎)</p> <p>イ・生徒自己診断「授業に集中」86% (△) ・生徒自己診断 「授業・補習を通じて進路に必要な学力を得 ることができる」87% (△) 補習・講習は例年通り実施したが、活用状 から目標値を下回った。生徒への働きかけで活 用状況を上げて学力向上につなげたい。</p> <p>ア・授業アンケート「授業内容について必要な 予習や復習ができています」3.26 (○) 指標にはわずかに及ばなかったが、昨年度よ り向上した。朝の小テスト等を通じて生徒の 家庭学習に取り組む姿勢を育てる。</p> <p>イ・生徒自己診断「自学自習の習慣がついた」 59% (△) 朝学のあり方や教育産業の動画 配信の活用法の検討が必要</p> <p>ウ・月平均 1 冊以上本を読んだ生徒 40% (○)</p>
<p style="text-align: center;">2</p> <p style="text-align: center;">将来を自覚した進路を切り拓く力の育成</p>	<p>(1) 進路指導体制 の構築</p> <p>(2) 探究的学習の 推進</p>	<p>ア・進路指導方針に沿った教科単位の具体的な 3 年間の指導計画を策定・共有し、各学年「集 中学習会」を実施する。 ・外部模試等の結果を踏まえ、進路実現に向け た学習計画や内容の確認・修正を組織的な取組 みとして個別に行う。</p> <p>イ・関西大学・大阪公立大学等との高大連携や、企 業等との連携事業を推進し、キャリア教育を充実 させる。</p> <p>ア・「総合的な探究の時間」について、教育産業の 動画配信サービスを活用し効率化を図るとともに SDGs をテーマにした「深い学び」を体現する指導 体制を確立する。</p> <p>イ・生徒が自発的に探究し、発表する機会を作り 相互評価によって高めあう集団を育成する。</p> <p>ウ・SDGs に係る探究活動を通して教科横断的・ 包括的思考力及び共感力を育成するために 大学や地域と連携した体験的学習を積極的に 導入し、その成果を発表する機会を設ける。</p>	<p>ア・国公立大学及び難関私立大学現役 合格者 250 名以上[178 名]</p> <p>イ・生徒自己診断「自分の進路について しっかりと考えている」83%[79%]</p> <p>ア・生徒自己診断「探究的な学習を積極 的に取り組む」78%[76%]</p> <p>イ・生徒自己診断「将来の進路や生き方 について考える機会がある」90% 以上を維持[91%]</p> <p>ウ・「花園進路探究プログラム」を 100 名 以上参加[40 名] ・LETS 合同発表会につながる 2 年次 学年発表会の実施</p>	<p>ア・国公立大学及び難関私立大学現役 合格者 250 名以上 182 名 (△) 昨年度より実績は向上したが、指定校・公 募推薦で決めてしまう生徒が多い。一般入 試まで頑張らせる指導を引き続き取り組 む。</p> <p>イ・生徒自己診断「自分の進路について しっかりと考えている」78% (△)</p> <p>ア・生徒自己診断「探究的な学習を積極的 に取り組む」75% (△)</p> <p>イ・生徒自己診断「将来の進路や生き方 について考える機会がある」91% (○)</p> <p>ウ・「花園進路探究プログラム」を 100 名 以上参加 [24 名] (△) 朝日新聞とコラボした実験、大学教授によ る京都散策を実施 コロナ以降、継続が難しく、新たなあり かたを検討する必要あり。 ・LETS 合同発表会につなぐ 2 年次の学年発表 会の実施 (2 回) (○)</p>

<p>3 人権が尊重された教育の推進と社会性の育成</p>	<p>(1) 自己とあらゆる他者の人権を尊重し、多様性を認め、高め合う感性の育成</p> <p>(2) 社会性の育成</p> <p>(3) 自主的な活動への参画</p>	<p>ア・誰もが生まれながらにして持っている、人間として幸せに生きていく権利を尊重する心を育み、互いに認め合う集団育成を進めることをクラス目標とする。 ・同和問題について学習し理解を深める。</p> <p>イ・教科と連携した様々な角度から情報リテラシーの学習を実践する。</p> <p>ア・規範意識を持ち、自主自律の精神を育み、基本的な生活習慣を確立するため、生徒会主催の挨拶運動、遅刻防止週間を実施する。</p> <p>イ・日常の清掃活動を生徒保健委員会のテーマとして掲げ、実施計画を立てて実践する。</p> <p>ア・生徒が企画・運営する花高祭を実現する。 ・ボランティア活動等の地域連携を深めるための具体的な作戦を立てる組織を作る。</p> <p>イ・部活動に係る施設・設備等の充実や指導者を拡充し、部活動を頑張る生徒を応援する。</p>	<p>ア・生徒自己診断「人権を尊重することについて学べている」90%以上を維持[92%] ・「HR 教室は居場所として快適である」90%以上を維持[91%] ・3年生において、同和問題に係る人権学習を1回以上実施する</p> <p>イ・3年次12月実施の学校生活と人権に関するアンケート「インターネットと人権侵害について学んでよかった」92%以上を維持[92%]</p> <p>ア・生徒自己診断「私は本校の校則や決まりをよく守っている」94%を維持[94%]</p> <p>イ・生徒自己診断「教室や廊下等は清掃が行き届いている」73%[72%]</p> <p>ア・生徒自己診断「HR 活動や生徒会活動に積極的に参加」88%以上を維持[89%]</p> <p>イ・生徒自己診断「部活動が活発」90%を維持[94%] ・生徒会活動、ボランティア活動、部活動等自主的な活動で活躍する生徒を公式ブログ等で紹介する(月4回以上)。 [4回]</p>	<p>ア・生徒自己診断「人権を尊重することについて学べている」92% (○) ・「HR 教室は居場所として快適である」89% (△) ・3年生において、同和問題に係る人権学習を4回実施 (○)</p> <p>イ・3年次12月実施の学校生活と人権に関するアンケート「インターネットと人権侵害について学んでよかった」87.2% (△) 「よくわからなかった」が多く、内容の検討が必要。</p> <p>ア・生徒自己診断「私は本校の校則や決まりをよく守っている」95% (○)</p> <p>イ・生徒自己診断「教室や廊下等は清掃が行き届いている」68% (△) 1人の教員が複数個所を担当する現状に即した清掃活動を検討することが必要。</p> <p>ア・生徒自己診断「HR 活動や生徒会活動に積極的に参加」88% (○)</p> <p>イ・生徒自己診断「部活動が活発」94% (○) ・生徒会活動、ボランティア活動、部活動等自主的な活動で活躍する生徒を公式ブログ等で紹介する。 (学校案内等での紹介 1回) (△) 次年度に向け積極的な情報発信を検討する</p>
<p>4 豊かな国際感覚と優れた外国語運用能力の育成</p>	<p>(1) 多文化理解教育の一層の充実</p> <p>(2) 英語4技能を総合的に伸ばす英語教育の充実</p>	<p>ア・従来の在日外国人や留学生との交流に加え、姉妹校等との対面またはWEB交流を推進し、多文化理解に係る体験的学習を充実させる。</p> <p>イ・語学教育を通して、他国の文化や伝統、習慣等について学ぶ機会を充実するために、2年次でポスターセッションを行う。</p> <p>ア・ICTを活用したCanDoリストに基づく4技能を総合的に伸ばす教育を実践する。 ・教育産業の学習教材を効果的に活用し、高いレベルの英語力を育成する。</p> <p>イ・1年レシテーション及び2年スピーキングコンテストやインターナショナル・フェスティバル等を機会にスピーキングスキルを育成するための講習を充実させる。</p> <p>ウ・外部講師を招聘し英検準1級対策講座を実施、第二外国語検定を積極的に勤める。 ・国際文化科の生徒の英語力到達目標をCEFR-JのA2.2以上として生徒に動機づけを行い、教科指導を実践する。</p>	<p>ア・姉妹校等との交流10回以上[7回] ・1、2年次「国際交流行事」各2回。 [2回]</p> <p>イ・生徒自己診断「国際交流・国際理解教育が充実」90%以上を維持[91%]</p> <p>ア・学力生活実態調査英語(2年次8月実施)において学習到達度の人数 A3以上5.0%以上[2.7%] B3以上50%以上[45.8%]</p> <p>イ・授業やレシテーションやスピーキングコンテスト等で生徒が発表する機会 普通科10回、国際文化科20回以上 [普通科10回、国際文化科20回]</p> <p>ウ・国際文化科3年次12月CEFR-JのB1.1以上50%、A2.2以上100% [46%、100%]を達成 ・英検準1級以上合格者2名[1名]</p>	<p>ア・姉妹校等との交流7回 (○) Toowoomba State Highschoolとの交流 来校(7/7,8)、奈良散策 訪問(10/18)授業等で交流 全北外国語高校との交流 訪問(3/29,30)、Web交流2回 実績は昨年度と同じであったが、現地交流で密度の濃い交流ができたことから概ね達成。 1、2年生：英語での発表機会2回/年(○) 第二外国語発表会 仏語スケッチコンクール：優秀賞</p> <p>イ・生徒自己診断「国際交流・国際理解教育が充実」90% (○)</p> <p>ア・学力生活実態調査英語(2年次8月実施)における学習到達度の人数 A3以上10.1% (◎) B3以上71.1% (◎)</p> <p>イ・授業やレシテーションやスピーキングコンテスト等で生徒が発表する機会 普通科10回、国際文化科20回以上 [普通科25回、国際文化科34回] (◎)</p> <p>ウ・国際文化科3年次12月CEFR-JのB1.1以上46%、A2.2以上100% (○) 指標には達しなかったが、昨年度実績は維持したことにより概ね達成している。 ・英検準1級以上合格者0名(1/26時点) (△) 受検に向けた生徒へのアプローチを考えてく</p>

5 学校力の向上	<p>(1) 業務の効率化と生産性を向上させる仕組みづくり及び働き方改革の推進</p> <p>(2) 広報活動の充実、開かれた学校づくりの推進</p>	<p>ア・5分掌体制において業務分担を明確にする。 ・教科・学年・分掌の持続可能な協働体制を確立する。</p> <p>イ・人権、防災、ICT、授業改善に係る職員研修を各1回実施する。</p> <p>ウ・ICTソリューションを活用した会議のスリム化及び情報共有の効率化を実現する。 ・超過勤務の加算時間や除外時間の入力を促し、正確な勤務時間を把握する。</p> <p>ア・「花園 PRESS」活動を充実し、生徒による広報を推進する。 ・本校ホームページ及び公式ブログに、日々の様々な教育活動を掲載・公開し、生徒の様子や教職員等が取り組む様子を、学校内外に発信し、信頼される学校づくりを進める。 ・保護者に対し、メール配信サービスやホームページ等を利用して迅速かつ的確な情報を提供し、情報発信の広報を積極的に行う。 ・アフター・コロナを見通した姉妹校等との実質的な交流プログラムを再構築し、改めて姉妹校提携を締結する。</p> <p>イ・生徒会活動としての地域連携(小学校・中学校・高校など)に取り組む。</p>	<p>ア・教職員自己診断「学年・分掌・教科等の会議は有効に機能」68%[66%] ・教職員自己診断「各組織の連携」60%[58%]</p> <p>イ・教職員自己診断「研修は役立つ」72%[70%]</p> <p>ウ・各種会議のペーパーレス化の実施 ・時間外勤務月80時間以上の職員をなくす[繁忙期19名]</p> <p>ア・生徒自己診断「中学生に必要な情報発信を十分行っている」87%[86%]</p> <p>ホームページまたは公式ブログの更新を合わせて年300回以上[348回] ・保護者自己診断「保護者への連絡や情報提供を積極的に行っている」85%[84%] ・教職員自己診断「保護者や地域に対して十分な情報を伝えている」88%[78%] ・姉妹校等との訪問交流を計画し、状況を見て実施する。(全北外国語高等学校、Toowoomba高校との対面交流各1回)</p> <p>イ・近隣3高校での生徒会交流(はひふサミット)年3回[3回] ・小学校または中学校への生徒による出前授業を実施する(新規・年1回)</p>	<p>ア・教職員自己診断「学年・分掌・教科等の会議は有効に機能」70%(○) ・教職員自己診断「各組織の連携」45%(△) 『将来構想委員会』設置し分掌業務の見直しを図りたい。</p> <p>イ・教職員自己診断「研修は役立つ」66%(△) 意義のある研修についてそれぞれ担当分掌等と検討していくことが必要。</p> <p>ウ・各種会議のペーパーレス化の実施 ・時間外勤務月80時間以上の職員をなくす[繁忙期17名、平均8.3名](○)</p> <p>ア・生徒自己診断「中学生に必要な情報発信を十分行っている」86%(△) 現状維持。HPのブログ更新等、積極的な情報発信について検討していく。 ・ホームページまたは公式ブログの更新8回(△) ・保護者自己診断「保護者への連絡や情報提供を積極的に行っている」79%(△) ・教職員自己診断「保護者や地域に対して十分な情報を伝えている」74%(△)</p> <p>・姉妹校等との訪問交流を計画し、状況を見て実施する。(全北外国語高等学校、Toowoomba高校との対面交流各1回)(○)</p> <p>イ・近隣3高校での生徒会交流(はひふサミット)3回(○) ・地元中学校への生徒による出前授業実施(新規・年1回)[0回](△) 中学校からの要請がなかった。</p>
-------------	---	--	---	---